

女医会の発足にあたって

前（何しろ会の名称が変わったので）女医部隊隊長 毛利 忍

医者の中に女医の占める割合は徐々に上がっており、医学部で女性が半数を占めるのは珍しくなく、中には女学生の数を制限している大学もある程度です。今まで女医のイメージと言うと、まじめでこつこつ勉強するがひらめきはない、子供を持つと引退してしまう、大学には残らず開業志向である、などいかにも男の考えそうなものだったわけですが、女医の数が増えるにつれ、中嶋英子先生や溝口昌子先生を初めとしてそのイメージに当てはまらない女医が増えてきました。しかしまだ開業している女医が多いのは事実です。神奈川県皮膚科医会例会の出席率もちょっと低く、特に情報交換会は出られない方が多いようです。

この度神奈川県皮膚科医会の中で、多彩・多才な女医の中でもとりわけ濃艶な野村有子先生、清楚な増田智栄子先生が発案した女医の会は、その名称も女医部隊であり、2005年2月3日結団式を行いました。大変盛況で、主催者側としてはうれしい悲鳴をあげました。やはり女医は勉強好きなことが証明されてしまったわけです。そのときの事務局は隊長毛利忍、副隊長増田智栄子、局長野村有子、川崎組長望月明子、横浜組長能勢由紀子、湘南組長木花いづみ、企画班相原道子・村上富美子・河原由恵の面々でした。いろいろ討議の結果、遊びを忘れず楽しみながら、日常でよくあること、もっと知りたいことについて、不定期に勉強会をしようということになりました。例えば石鹸・洗剤・洗うということ、肌

着の材質、化粧品が全成分表示になったがどう見ればよいのか、などなどです。

学会より気軽でよい、女性同士だと本音で何でも話せるなどの声があり、暫くは男子禁制のまま開催することになりました。また名称については、軍国主義のようで再考を要するとの意見があり、なるほどと思われました。

待望の第2回は、2005年5月14日に開かれ、テーマは「洗う」でした。衣類についてミヨシ石鹸から、肌についてジョンソン・エンド・ジョンソンから、皮膚の環境整備・洗浄剤について新井ヒフ科クリニックの、その名もあらひ裕子先生が講演しました。よく知っているようでも案外新しい知識があり、興味深いものでした。その際、会の新名称についてもアンケートを行い、投票の結果「Joy Derma Club」と決定しました。

第3回は、2005年11月19日に行われました。テーマは「肌に触れるもの」です。かぶれの症例検討を大沼皮フ科の大沼すみ先生が、下着についてタレントの宇江佐りえさんが、生理用品について花王株式会社の方が講演されました。私は残念ながら体調の都合で参加できませんでした。出席した方の話では、面白く為になるお話だったそうです。

神奈川県皮膚科医会の女性会員の皆さん、参加をお待ちしています。みんなの知恵を持ち寄って、ますますよい会にしていきたいと思います。

私の趣味《1》

旅とテニスと空中ブランコ

中澤かおり（天王町皮膚科：横浜市保土ヶ谷区）

私がこの豊満な肉体(?)で、シルク・ド・ソレイユ顔負けの空中ブランコをするわけではありません。高1になる娘が、数年前から地中海クラブの空中ブランコにはまり、そのマネージャーの如く、地中海クラブが有する「バカンス村」への親子旅が始まりました。日本には北海道の佐幌と沖縄の石垣島の川平にあるだけで、寒いのが苦手な私達は、まとまった休みがあれば石垣島へ向かいます。地中海クラブは世界中に100ヶ所以上のバカンス村を持ち、そこで働くG.O.と呼ばれるスタッフもフランス人をはじめとするいろいろな国の人々で、6ヶ月から2年単位で各村を移動し、日中はスポーツインストラクター、夜は舞台のショーに出演するという多忙で献身的なスタッフに支えられています。例え、一人旅でもウィンドサーフィン、シュノーケリング、ビーチバレー、テニス、ゴルフ等、いろいろなスポーツに参加でき、そこで仲良しになったG.O.を追っかけて別のバカンス村を訪れる楽しみもあるわけです。

そこで娘が空中ブランコの練習に明け暮れる間、私も10数年ぶりにラケットを握り、テニスレッスンに参加したのがマイブームのきっかけです。横浜へ帰ってからも週1～2回のテニススクール通いが始まり、保土ヶ谷区医師会と横浜市医師会のテニス部にも入れていただき、例会や大会で試合の楽しさも分かってきました。昨年の6月5日にはシーガルカッ



平成17年夏、バリ島の地中海クラブにて。左から3人のG.O.と娘、私



高さ7mのボードから飛ぶ直前の娘

プという横浜市医師会テニス部とYITC (Yokohama International Tennis Community) の交流試合に参加しました。結果は残念ながら私達ドクターズは13勝23敗という完敗で、悔しい思いをしましたが、(部長の平井三知夫先生以下) 次回こそはと練習にも熱が入っております。練習後の食事会も楽しい情報交換の場で、科を越えて家族ぐるみのお付き合いです。

この原稿依頼をお受けした時には、10月の連休に石垣島でテニスをするスナップ写真を載せようと思っておりましたが、先日施行した大腸ファイバーで直腸に病変が見つかり、丁度10月に入院して手術を受けることになりました。6月に受けたPET検査で指摘されてはいたのですが、大腸ファイバーがイヤで、食い意地の張った私は、検査前日のボンコロン食で忙しい夏の外来がやれる訳が無い、などと勝手な理由をつけて秋風の吹く頃まで先送りしてきたことを反省しています。休診中に何より患者さんに、そして先生方にご迷惑をおかけしたことをこの場をお借りして心からお詫びいたします。

お陰様で術後の経過も良く、完全に復帰できましたが、これからは毎年しっかり検診を受けて、元気に70代になってもテニスができるように気をつけようと思っています。



私の趣味 《2》

なんでもやっちゃうぞ！

相川洋介 (クローバー皮膚科・内科クリニック：小田原市)

パート1. (落語)

小・中学校時代、年に1度弁論大会があり、何故か毎年クラスの代表。話す本人が困ってしまう程の面白みのないタイトルに、会場全体には重苦しいムードが漂っていました。このムードを打破するのはもはや笑いしかないと考えつつも、本番でアドリブもきかず、納得のいかないまま毎回舞台を降りていました。それからというもの、心のどこかで笑いを追い求めるようになり、ようやくたどり着いたのが高校の落語研究会でした。私の出身校・小田原高校の落ち研は、20年前お笑い界で人気を博していた3人組“コント赤信号”のリーダー渡辺正行さん。ではなく、一番有名なラサール石井さん。でもなく“もう1人の人” (小宮孝泰さん) がOBの、伝統ある研究会でした。新人は放課後校庭のど真ん中でよく発声練習をさせられたものでした。高座に上がる時は扇子片手に浴衣に角帯。当時今よりも20kg以上太っていた私はどうみても相撲取りの新弟子でした。ど素人の落語や大喜利でも笑って下さる温かいお客さんが多く、弁論大会ではあり得なかった笑いを獲れたことにより満足できたものでした。高3の文化祭を最後に高座には上がってはいませんが、昔仲間内で大人気であった今は亡き桂枝雀師匠のCDやビデオで今でも落語を楽しんでいます。



パート2. (Saxophone)

「3連符の後のソの音はきちんとタンギングをして！」「Gマイナーペンタトニックスケールのアドリブの練習だからミとラの音は避けて！」「12小節のアドリブの後はダルセーニョだから4段目に戻って！」などなど、日々の生活では全く聞くことのない単語が次から次へと頭上から襲いかかってきて頭の中はパニック状態。これは毎週火曜日・夜10時過ぎ、自宅の最寄り駅からほど近いビルの地下1階にあるスタジオでの風景。先生からの指示をすっかり硬くなってしまった頭で少々時間を要しながらも何とか理解し、超鈍速で指先に指令を送り、たっぷり時間があるはずなのに命令通りに動いてくれない我が指に腹を立てながら汗だくで20年振りの生徒をやっている私の姿です。興味を持つとすぐやってみたくなるのが昔からの悪い癖で、アルトサクソフは渡辺貞夫さんの資生堂ブラバスのCMが発端でした。テレビから聞こえてくる“ご機嫌な”曲が妙に気になり画面を見てみると、カラフルなアロハシャツを着てプールサイドで俳優の草刈正雄さんと大笑いしている知らないおじさん。今では渡辺貞夫さんの人間的な魅力にもひかれ、生の渡辺貞夫を味わうために年に1度は新宿PIT INNに足を運んでいます。当時、運よく大学の同級生でブラスバンド出身の友人がおり、数日後に楽器に触れることができました。そして遊びでいじりだしてから約15年後の今から5年前、体調を崩したことが新たな決心につながりました。検査・治療にあたってくれた先輩の外科のDrから「お前の病気はストレスからくるものだから、週に1回くらい気分転換に何か好きなことをやったほうがいいぞ！」とアドバイスされ、“それじゃあ本格的にJAZZでも習ってみるか”と教室の門をたたいたわけです。習い始めると、みるみるうちに上達し……だといいいのですがそうではなく、みるみるうちに体調の方だけ良くなり、家族もホッとしたのか日頃夜遅く家を空けるのを嫌がる女房や子供達



も、火曜の夜だけは快く送り出してくれます。ただ、気分転換やストレスの発散になっているのはサックスを吹くことではなく、レッスン後に先生や他の生徒達と行われる飲み会の方であるということに、私以外はまだ気づいていないようです。年のせいなのか才能がないのかサックスの腕は昔のままで上達の気配はなく、将来ピアノを習っている娘と渡辺貞夫さんの曲でも一緒に演奏できればという夢を持っているのですが夢のままで終わりそうです。

パート3. (肉体改造)

一昔前まで、“人生50年”。体の方も50年耐用にしか作られておらず、平均寿命ののびた今、その先の人生を生き抜くには途中で体を作り直さねば！と考へ一念発起。

朝起きて水素水にアミノ酸を溶かして一気に飲み、そして2杯目の水素水でコエンザイムQ10とビール酵母を流し込む。仕事をしている平日の昼食は決まって野菜とキノコたっぷりの雑煮を食べ、自宅でも牛乳のかわりに豆乳を、砂糖のかわりにはプロポリス入りの蜂蜜を使用する。そして、棚の中には他にも、豚のコラーゲンに秋ウコン、亜鉛にグルコサミンが。こんな私を女房と女房の家族は“健康食品おたく”と呼びます。酒もある日毒のように思えてきて翌日より禁酒。自分で言うのも何ですが、意志は結構固い方でタバコもやめようと決心した翌日にはスッパリやめました。思いこみもかなり激しく、飲み会で飲むウーロン茶もまわりの仲間が飲んでいる生ビールよりもうまいように思えてきて、延々と続く飲み会で、飲めるもんですねウーロン茶

12杯。ところが途中で友人の「お前肝臓悪いの？」の一言で急にむなしくなってきた、13杯目は焼酎入りに変わりました。

休日にぶらっと出かけるスポーツジムにも、BCAAとクレアチニン入りのスポーツドリンクは必需品。ストレッチで体をほぐし、ランニングでみっちり汗を絞り、合間の栄養補給にはバナナとゆで卵の白身。実はこれはプロレスラーからの受け売りですが、行き過ぎのように思われる肉体改造も今の私の趣味です。

パート4. (プロレス)

そしてやはり最後を締めるのはプロレスです。行って来ました、9・11(豆知識：プロレスファンはきゅうてんいちいちと読む)後楽園ホール。事前の予想をはるかにこえる自民党の圧倒的勝利で終わった第44回衆議院総選挙の日。国民の義務ですので朝一番に投票を済ませ、私の20年来の友人である上井文彦氏(写真)がかつての格闘技界のカリスマ・前田日明氏をスーパーバイザーに迎えて設立した“ビッグマウスラウド”というプロレス団体の記念すべき旗揚げ戦。リングサイド最前列を用意していただき、昔懐かしいUWF(豆知識：UWFとは、前田日明・高田延彦・初代タイガーマスク選手らによるキックや関節技を中心にしたファイトスタイルのプロレス団体)を堪能してきました。冬の時代と言われて久しい格闘技界にあって、招待券は一切なしの実数でホールが超満員・札止め。関係者に配られる大入り袋まで頂いて家路につきました。この日の余韻で1ヶ月は頑張れそうです。

というわけで広報委員の特権か、2年に亘り登場させていただきました。くだらない私の趣味におつきあいいただきありがとうございます。



有限会社ビッグマウス・上井文彦代表取締役(右)と私・相川



私の趣味 《3》

Shall we dance?

竹内瑞恵 (北青山病院：東京都港区)

学生時代から社交ダンスを習い始め早15年が経とうとしています。今回趣味について一筆、とお話をいただきあらためて思い返し、自分でも驚いてしまいました。

私と社交ダンスの出会いは実はもっと古く、幼稚園の時にさかのぼります。たまたまテレビで放映されていた全日本選手権の模様を見て以来、すっかり魅了されてしまったのです。その時は「いつか私もこんなシンデレラのようなドレスを着てみたい!」という単純な思いの方が大半を占めていたのですが、スポーツでありながら優雅に、時には激しく「魅せる」ことをひとつの目的とするダンスは見るだけでも本当に楽しく、いつかは習いたいなあという思いがずっとありました。偶然、受験の時に取り寄せた大学案内で女子医大にはダンス部があることを知り、大学の合格発表の前から女子医大に入ったら絶対ダンス部に入部をしようと勝手に決めていて、幸い実現することができました。

社交ダンスには学生競技ダンス連盟（いわゆる学連）なるものがあり、将来プロになって日本のダンス界を担う選手となる人々もほとんどがこの出身なのですが、女子医大のダンス部は競技などとは縁

遠く、まして体育会系でもなく、週1回の部活に学連の試合でファイナルに残った優秀な東工大の男子学生が（部員は当然女子だけなので）コーチ兼、相手役として来てくれて一緒に踊るといった本当にアットホームでのんびりしたものでした。ただ、ダンスを始めてすぐに、私は重大なことを克服しなければなりません。今の私を知っている人には笑われてしまうかもしれませんが、いざ実際に自分が踊ってみると、踊っているところを他人に見られることは想像以上に恥ずかしく、また小学校からずっと女子校だったせいも当時の私は同世代の男性に全く免疫がなく、相手と手を繋ぐだけでも動揺して赤面してしまい、初めの頃はいつも床ばかり見て踊っていました。先輩には「そのうち見られることが快感になってくるから」なんて言われて励まされていましたが、本当に環境とは恐ろしいもので、半年程で見られるのが当たり前、になってしまいました。

少しでも社交ダンスを見たことがある人ならご存知だと思いますが、社交ダンスには10種目あり、モダン（スタンダード）とラテンに大別されます。モダンは男女が両手を組んで（ホールド）常にボディ

ーをつけたまま踊るワルツ、タンゴ、スローフォックストロット、クイックステップ、ウィナーワルツの5種目、ラテンはもっと組み方は自由で基本的には片手だけをつないで踊るルンバ、チャチャチャ、サンバ、パソドブレ、ジャイブの5種目から成っています。イメージ的には、モダンは優雅でいかにも英国の紳士淑女のためのダンスといった古典的な感じ、ラテンはもっとエネルギッシュでセクシーな南米のダンスといったところでしょうか。

簡単なステップがある程度どちらも踊れるようになると大抵は専攻を



決め、それによってダンス仲間の間ではモダン人、ラテン人なんて呼び方をしますが、私は小さい頃に見たテレビの影響からか、社交ダンス＝モダンだったので、迷わずモダン人を選びました。学生時代は唯一の発表の場が年1回学園祭で行うデモンストレーションだったのですが、私はそこでようやく念願だったシンデレラのようなドレスを着てワルツを踊り、無事ダンスデビューを果たしました。

その後、大学3年の頃にはすでに部活だけでは飽き足らず、近くのダンススタジオに通い始め、ダンスにのめり込んでいきました。国家試験前後は少しブランクはありましたが、社会人2年目には日頃の運動不足解消のためにもスタジオでのレッスンを再開し、学連出身者が中心となって活動している社会人サークルにも入会し、サークル同士の交流試合や地域のダンス選手権に出場するようになり、私のダンス熱はますますヒートアップしていきました。今では財団主催の競技ダンサーとして、プライベートな時間の大半は練習と試合に明け暮れています。サークル仲間をよく話すことですが、本当にダンスは魔物のようなもので深く関われば関わるほど、その魅力に取りつかれてしまいます。アマチュアでもトップクラスのダンサーになると、中にはダンスの練習時間を作るために仕事を变えたり、良いスタジオの近くに引越しをする、なんていう凄い人もいますから、私なんてまだまだ可愛い方です。ただ、相模原病院勤務時代は週末の包交当番を決めるに当たって、オーベンがまず試合の日を避けてくださったことは本当に感謝です……。ダンスは自分1人で完璧であっても、相手との調和



がとれていなければ完成しないところに一番の面白さがあるのかもしれませんが。

学生時代からずっとモダンばかりやってきましたが、競技を始めてから一流のプロのダンスを観る機会も増え、ラテンの素晴らしさも目の当たりにし、ある程度はどちらも踊れたらと思うようになり、実は4年前よりラテン人に転向しました。ラテンの方が動きがハードで衣装も露出度が高いので、一線で活躍している人は20代が大半で、年齢が上がるにつれ、ラテンからモダンに転向する人は多いのですが、私のような例は少なく、仲間も初めは驚いていました。ラテンは本当にまだまだですし、競技ダンサーとしてラテンで上位を狙える年齢はあと5年くらいかと思いますが、もう少し上手くなれたらモダンにも今までとは一味違った良さを加えられるかしら、なんて思っています。あくまでも趣味の範疇（と自分では思っている）ですが、種目を問わず、何でもこなせるテンダンサー（10種目踊れるダンサー）目指して家族の呆れ顔を尻目に日々奮闘中です。